



大観
發刊の辭

侯爵 大隈重信

日本は眇たる東海の浮漚の如く、大陸を離れて孤存せる小島國で、世界的空氣を呼吸する事甚だ少く、初めて今を去る約千五百年前後より我勢力は朝鮮に及んだが、次に支那と交を結び、更に支那を経て印度の宗教が傳はり、茲に漸く一脈の世界的觀念なるものが萌したに過ぎなかつた。而かも其内容を檢すれば僅に朝鮮、支那、印度の三國に盡き、印度の極西は幽明の兩界を劃し、それから先は所謂る西國淨土で、世に云ふ極樂であるかの様に想つて居た。何事にも三國傳來と口癖の如く言つた事が之を證して餘ある。

日本が眞に世界的空氣を呼吸し得たのは今より約四百年の昔なる天文以降の事で、葡萄牙先づ來り西班牙之に次ぎ、茲に初めて三國以外に尙ほ幾多の邦國の宇内に棋布する事が吾人に知られた、葡萄牙と西班牙とは共に西歐に於ける背合せの隣國であるが、其來るや各々道を異にし、前者は喜望峯を迂回して東へ々と志し、印度より南洋に出で、日本に著いたが、後者は亞米利加を經、西へ々と志して墨西其を通り、太平洋沿岸を辿つて日本に著いたので、初に相背いて出發したものが端無く茲に相面して立つを見るや、是迄久しく邦人の思想を支配した印度の須彌山説や支那の天圓地方説が根柢より破壊され、地の圓いといふ即ち地球といふ觀念が明確に立證されたが、それと同時に又三國のそれに優れる、智識ある他の民族の存在を喜ばしく感じた。歐洲の封建の敗れたのは火藥の力で、最も早く之を兵器に使用し得たものが、當時の優勝者であつた。葡、西の兩國は即

大観

2

早稲田大学図書館蔵 / Waseda University Library

サイ101

